

令和4年度 第3回清水区地域包括支援センター運営部会 議事録

1 日 時

令和5年2月16日（木） 14時00分～15時30分

2 場 所

清水区役所 3階 第1会議室

3 出席者

(委員)瀧部会長、大檐委員、井上委員、中村委員、隅倉委員、岩上委員、森委員、吉永委員
(地域包括支援センター) 10 地域包括支援センター

4 事務局

清水区役所 清水福祉事務所 高齢介護課 高齢者福祉係
保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 地域支え合い推進係

5 傍聴者

0人

6 地域包括支援センター活動報告及び意見交換

(1) 両河内地域包括支援センター

岩上委員：

オーラルフレイルのアンケートは是非続けて長期経過を見て行ってほしい。アンケートから、わかることがあれば教えてほしい。

両河内地域包括支援センター：

課題抽出と取り組みはこれからであり、今後歯科衛生士と相談しながら行って行く。

井上委員：

おむつバンクについては、社協の協力もありいい方向に進み素晴らしい。これを静岡市内に普及し広がればいいと思う。

瀧部会長：

特殊詐欺はどんなものだったか。

両河内地域包括支援センター：

箆笥預金していた高額の現金が取られたというものであった。事前に電話がかかってきてというものもあった。

瀧部会長：

人員についてはどうなっているか

両河内地域包括支援センター：

確保できず、2人体制のまま活動している。

(2) 港南包括支援センター

隅倉委員：

移動スーパーで「居場所」とは、どのようなイメージなのか。

港南地域包括支援センター：

居場所という建物というイメージだが、集まってくるメンバーが顔なじみになり週1～2回顔を合わせて「元気？」と、たわいもない会話ができることが、安否確認となり地域のつながりにもなっていく。地域の方にとっての一つの「居場所」となっている状況。

隅倉委員：

自分たちの地区でも、居場所づくりを考えているが、場所を探すことが先行しているので、参考にしたい。

中村委員：

地域の「あったらいいな(居酒屋カフェ、話し相手、高齢者向けのわかりやすいレシピ、料理教室等)」を生活支援コーディネーターと情報共有ができていているということだが、来年度はどのように展開していくのか方向性があったら聞きたい。

港南地域包括支援センター：

ぜひ形にしていきたいと思っているが、自立プラン型会議や日常の相談の中でインフォーマルでないと難しいサービスが多々ある。“どこで、誰の協力を得ながら、どのように行っていくか”等検討中である。自治会館等既存の場所で、地域の力を借りながら形に出来たら良いと考えている

大檐委員：

まるけあ手帳は圏域で作成したものか。

港南地域包括支援センター：

地域包括ケア推進本部の方が何年か前に作った既存のもの。本人の自発的な健康を目指すもので、自分は一年後「こうありたい、何をしたい」等書き出し、そのニーズと地域の資源をつないでいく。フレイル予防や認知症予防等の事後評価でも活用できる。

大檐委員：

今あるツールを活用していて良いと思う。続けて行ってほしい。

瀧部会長：

「とりあえずやってみよう」と、なりにくいことにも取り組んでいるため、来年度いい報告を楽しみにしている。

(3) 岡船越地域包括支援センター

瀧部会長：

名称「まるけあ〇〇」と「〇〇包括支援センター」の使い分けはどのようにしているか。

岡船越地域包括支援センター：

数年前から「まるけあ」の名称推進を全市的に行っている。岡船越地域包括支援センターでは、電話に出る時やメール等で周知を図っているが、相手に地域包括支援センターだと伝わらないこともあるため、さらなる周知を図っていきたい。

隅倉委員：

「認知症カフェや圏域の小学校4年生に福祉教育として授業を行った」とある。今は、

6年生の総合学習に「地域と共に生きる」という項目もあるため、さらに福祉教育として関われる時間が取れるのではないかと思う。

井上委員：

静岡市の介護保険の冊子に地域包括支援センターの役割や連絡先が書いてあるが、「まるけあ」との記載はないため、名称の認知度を高めるため市の後方支援も必要。

瀧部会長：

名称を広める重要性もあるが、小学生等に「地域包括支援センターを何するところですか」と聞かれたら、一言で何と答えますか。病院職員ですら知らない場合がある。

岡船越地域包括支援センター：

福祉教育の時には、「高齢者が困ったとき相談をするところ」と説明している。

瀧部会長：

誰もがわかるキャッチフレーズがあるといい。病院職員として、患者さんやご家族にも説明しやすいし理解しやすいため、考えてもらえるとよい。

(4) 高部地域包括支援センター

吉永委員：

「ケアパスを全戸配布することができた」とあり、介護家族の意見を取り入れていくとの展望があるとわかった。それは、これから改定として追加していくのか。また、広めていくためのイメージはあるか。

高部地域包括支援センター：

金額的な問題もあり、次年度すぐに改訂版を作れるか否かについても地区社協や自治会との協議になる。地域の人たちからは、これを作って終わりとせず改訂版の検討も含め考えていこう、との声をもらっている。その際、今年度落としてしまった視点を入れていきたい。

中村委員：

台風15号の際、情報が全くない中で、地域包括支援センターがうまく機能してケアマネジャーに情報を発信してくれたため、ケアマネジャーがうまく動くことにつながった。今後も地域のケアマネジャーのためにも地域包括支援センターには是非頑張ってもらいたい。

森委員：

「民生委員の改選後、地域包括支援センターと事例検討を行った」とある。私の圏域でもケアマネジャーもあわせた交流会、顔合わせの場がありとてもいい機会だった。次年度以降も、改選のタイミング等を利用し、よりよい連携のため行ってもらいたい。

瀧部会長：

人員は足りないと思うが確保されていますか。

高部地域包括支援センター：

はい。

(5) 飯田庵原地域包括支援センター

隅倉委員：

地区社協の集まりが不定期というのは、コロナの影響によるものか。

飯田庵原地域包括支援センター：

コロナ以前から不定期開催です。

隅倉委員：

小学生の認知症サポーター講座は学校演壇を使って行ったものか。私の地区では、学校演壇ともう一つ児童クラブで低学年の子供を対象に行った。低学年が対象であり、あまりピンと来ていないかと思ったが、家に帰り親と一緒に話ってくれた様子があり、効果があった。

吉永委員：

「自立支援プラン型地域ケア個別会議ではほぼすべてのケアマネジャーが事例を提出後、積極的参加が見られない」とあるがどういうことか。

飯田庵原地域包括支援センター：

圏域内のケアマネジャー全員が一度事例を提出できており、現在二週目になっている。一度やっているのと、事例提出を断られることがある。

瀧部会長：

自立支援プラン型会議は、市から開催の目標値が提示されているためと思われる。これに対し、どこの圏域もケアマネジャーの協力が得られにくくなっている。同じような形でよいのか、効果検証の必要性も言われているため、自立支援プラン型会議の中で報告や経過を追う機会があってもいいと思う。行政の中でも検討してほしい。

森委員：

自立支援プラン型会議は、軽度者の自立を促し、利用者のQOLの向上を目指すものなので、要支援1から要介護2くらいまでのケースを積極的に提出、参加できるとよいと考える。

飯田庵原地域包括支援センター：

圏域内に介護予防プランを受けてない事業所もあり、会議には参加しない事業所もあるため困る。要介護事例でも参加してもらうように声掛けを続けているが、今のところ参加はない。

森委員：

「飯田庵原+高部地区モデル的圏域地域ケア会議」を実施したとあるが、具体的な課題解決策につながった等あれば教えてほしい。

飯田庵原地域包括支援センター：

モデル会議では、地区役員に参加してもらい地区別に主に台風15号から得た課題の話をした。水があるか、道路が通れるか等、地区（高部・飯田・庵原）ごとに課題はそれぞれ

れだった。市からの情報が届かず、そういった情報集約場所がないことが課題とわかった。地域包括支援センターが地区の情報の集約場所となることも考え準備していきたい。

(6) 松原地域包括支援センター

瀧部会長：

自立支援プラン型会議の事例提供を希望するケアマネさんがいないという課題があるようなので、行政の方でも課題として認識してもらいたい。

地域包括ケア推進本部 石上係長：

自立支援プラン型会議について、市から地域包括支援センターへできるだけ開催してもらいたいと件数の目安を提示してあるが、ケアマネジャーの人数が圏域によりばらつきがあり、件数としてあがらないことは仕方がないと思う。プランは、評価していくことが必要なので、一度上げたプランがその後どのようなようになったか、会議でのアドバイスが有効だったのか等その後の展開の評価をしてもらうようお願いをしている。ケアマネジャーも多忙であるため、そのような設定がなかなか進んでいかないが、そこが出来ればプラン全体の見直し、ケアマネジャーや地域包括支援センター、アドバイザー等みんなの力が上がり、うまく回るのではないかと思う。市から地域包括支援センター等へ、昨年度の実績をもとに実施にあたっての評価や課題について話をしている。皆さんの意見をもらいながら検討を進めていきたい。

瀧部会長：

自立支援プラン型会議に出たケアマネジャーだけがスキルアップするのも勿体ない。事例集（この事例にこう関わって、こう変わっていった等）があれば、情報共有でき良いのではないか。市として持っているデータの活用なども検討してもらいたい。

(7) 有度地域包括支援センター

森委員：

台風15号被害で包括自身が甚大な被害を受け大変だったと思いますが、包括自体の防災で変わった事があるか。

有度地域包括支援センター：

ハードの部分ではすぐに動かすのは難しく、法人と相談しながら今後の事については検討している。

中村委員：

BCP（事業継続計画）に絡めた連絡網や掲示板の作成という話があったが、他の地域も災害にあっているなので、このような良い取り組みは他の地域包括支援センターとも共有して行ってほしい。

瀧部会長：

BCPも有度包括だけでなく清水区内の一带を取り巻くBCPにつながるとよい。

岩上委員：

社会資源マップについて、昨年作成し今年度から運用していると思うが、使用感や効果はどうか。

有度地域包括支援センター：

社会資源マップの中に交流館だよりなども載せさせてもらい、ケアマネジャーからは「インフォーマルな活動のものはここからプリントアウトして持っていつている」という意見をもらっている。Google マップでつまづくケアマネジャーもいるので皆さんの使いやすい方法を模索している。

(8) 蒲原由比地域包括支援センター

瀧部会長：

一般の方と対面での開催は、今年度はまだ難しいという事もあったと思う。高齢者施設においても厚労省から面会の方法についてのビデオ等で紹介があるなど、コロナ禍での対応について動きが変わってきている。当院でも3月から面会が緩和される。対面で開催できるものは、標準的な感染対策をしながら積極的に進めてもらいたい。年度計画を立てる時点で、感染症流行しやすい時期を避ける等スケジューリングし、実施に結び付けてもらいたい。

森委員：

蒲原地区でのコミュニティバスについて、4～5年前試運転していたと記憶しているが、まだ運航には至っていないのか。

蒲原由比地域包括支援センター：

試運転では、高齢者が利用しやすい停留所間にするなどして多くの方が活用していたが、計画して運航することを地域で維持するには費用^的がかなりかかり難しかった。立ち上げたい側と、ニーズから見込める収益、補助金の金額との折り合いがつかなかった。蒲原地区と由比地区、両自治会での検討が始まったがなかなか進まず、コミュニティバスの実現は難しいという方向に地域の意識も向いている。そのかわり、蒲原地区では地区社協ボランティアによる生活支援の一部として移動手段となるものを盛り込めないか、研修会等を開始している。由比地区も同様の活動ができ、全域でいい動きができるよう協力していきたい。

(9) 港北域包括センター

瀧部会長：

事例集をさっそく作っていて素晴らしい取り組みだと思う。

(10) 興津川包括支援センター

吉永委員：

“道で認知症の方に出会ったら”というテーマでの寸劇を検討していることで、S型サービスだけでなく、年代を超えて小中学生も対象として実施できれば食いつきがよいと思う。中学生が認知症の方を助け警察に表彰されたというニュースもあったように、「認知症の方は地域包括支援センターに」というアプローチにつながるのではないかと。

興津川地域包括支援センター：

小中学生へも寸劇による啓発活動ができれば、学校の行き帰りがお互いに見守りになり、見守りの裾野に学生も加わり広がると思う。小島地区は、主任児童委員と小学校とが地域ぐるみの良い関係性ができているため、主任児童委員と相談し発展させていきたい。

7 次年度の取組み、地域包括支援センターへの期待

瀧部会長：

課題が明確な地域包括支援センターと、来年度も同じように取り組んでいこうと課題がはっきりしていない地域包括支援センターがある。地域課題なのか、事業に関する課題なのかを整理することが、今後の対応につながっていくと思う。